

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。〔17番 伊藤文博君登壇〕

○17番（伊藤文博君）

発言通告書に基づき一般質問を行います。

6月議会には産業振興全般について質問させていただきましたが、1点目として、そのうちの観光振興について市長の考えと取り組みを伺います。

- (1) 当市には2つのスキー場、2つのゴルフ場、多くの登山ルートがありますが、市として年間を通じての観光誘致策はあるのでしょうか。
- (2) 小松空港、富山空港、能登空港との連携による海外観光客の誘致策について伺います。
- (3) 自然環境のすばらしさは、市民も自認しているところですが、それを観光に結びつけるには、官民一体となった取り組みが必要であります。

眠っている観光資源と言われる福来口鍾乳洞の開発については、観光資源としての特性と企業との共存の可能性を図り、方向性を見出すべき時期に来ていると思いますが、今後の取り組みはいかがでしょうか。

2点目、行政改革における業務改善について。

科学的事務管理手法、PDCAの質問は前回いたしました。今回は、その中の業務改善部分だけについて質問いたします。

- (1) 日常業務の業務改善は、どのような手法で行うのか。

行政改革が求められ、現在、議会においても特別委員会を設置して協議を重ねているところではありますが、組織改革や指定管理者制度による委託業務の改善などと同時に、日常業務の改善が重要であります。

手法を確立し、実効のある業務改善を計画的に、そして確実、効果的に推し進める必要がありますが、どのように考えているのでしょうか。

- (2) 総合計画の策定に関する市民アンケート結果のうち、業務改善につなげるべき内容が多く含まれていますが、その分析と改善についてどのようになっているのでしょうか。

3点目、男女共同参画プランについて。

- (1) 国の第2次男女共同参画基本計画が定められました。これを受けて、当市の男女共同参画プラン策定の計画やその状態はいかがでしょうか。
- (2) 「ジェンダーフリーという言葉は、意味や内容が使用する人に・よってさまざま、誤解や混乱が生じている」というふうに東京都教育委員会は言っていますが、市長の見解と今後の取り扱い方針はいかがでしょうか。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

伊藤議員の質問にお答えいたします。

まず、1番目の観光振興についての1点目、年間を通じての観光誘客策についてですが、季節ごとにイベントや観光施設に特徴を、お客様のニーズに対応するよう新聞、雑誌、テレビ、ホームページ等の各メディアを活用した広告宣伝や情報発信を中心に実施し、加えて、観光業者などとの連携により誘客キャンペーンにも力を入れて、宣伝活動を行っていきたいと考えております。

2点目の空港との連携による海外観光客の誘致については、斉藤議員のご質問にもお答えいたしました。現在、新潟県では国際観光テーマ地区推進協議会を中心に、新潟空港へ乗り入れている海外定期路線を主に、外国人観光客の受け入れ体制の整備を進めております。

残念ながら小松、富山、能登空港とは、現在のところ連携がとれてないのが現実であり、広域観光の観点から見ると、新潟空港と北陸地域の空港を結びつけるということでコースが多様化されると、中間点の位置にある当地域を通過することになりますので、富山空港などとの連携についても新潟県に対し、調査研究の働きかけをしていきたいと考えております。

3点目の福来口鍾乳洞の開発についての今後の取り組みについてですが、既存企業の営業への影響、開発にかかる財源の確保、観光需要の見きわめなど、まだ解決しなければならない多くの課題があると考えております。

2番目の行政改革における事務改善についての1点目、日常業務の事務改善についてですが、職員一人ひとりが行政改革の必要性を十分認識し、日ごろから問題意識を持って改善に取り組むことが重要であると考えております。

職員から提案のあったすべての内容、検討状況などを全職員に周知し、職員意識の向上や全庁的な事務改善の取り組みとなるよう努めているところであります。

2点目の総合計画に関する市民アンケートの結果の分析と改善ですが、行政改革や事務改善の観点から分析しますと、職員の市民に対する接遇や対応、職務に対する姿勢、職員給与の適正化、健全な財政運営、市町合併による不安、市民の声の行政施策への反映など、意見として多く寄せられております。

これらにつきましては内容を精査し、行政改革実施計画の中そこ組み込み、事務の改善を推進してまいりたいと考えております。

3番目の男女共同参画プランについての1点目、当市の男女共同参画プランの策定計画についてですが、平成18年度に市民意識調査を実施し、この結果を踏まえて平成19年度末にはプランを策定したいと考えております。プランの策定に、当たりましては国の基本計画に即して、市民の意

見を十分反映させるよう努めてまいります。

2点目のジェンダーフリーという言葉につきましては、国の基本計画でも注釈がつけられておるとおり、解釈においての混乱があると認識しており、基本計画の中でもこの用語は使われておりません。ただ、ジェンダーという用語については、いわゆる社会的性別を指すものとして定着しており、私といたしましても偏見につながるような慣習等については、是正をしていかなければならないと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

{「議長」と呼ぶものあり}

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○17番（伊藤文博君）

1点目の観光振興について再質問いたします。

小松空港以下3空港、これが非常にこの新潟県でも西の糸魚川地区を通過して、白馬方面へ観光に出ている海外からの観光客をたくさん運び込んでいるという状況があります。この観光客が、どの程度入ってきているか。そしてその動向について、調査をしたことがありますでしょうか。

{「議長」と呼ぶものあり}

○議長（松尾徹郎君）

田村商工観光課長。〔商工観光課長 田村邦夫君登壇〕

○商工観光課長（田村邦夫君）

お答えいたします。

いわゆる北陸地方の空港、大きな小松、能登、富山、3つの空港があるわけではありますが、これは平成16年度でありますけれども、この3つの空港で、いわゆる私ども特に関係するものとして中国、韓国、台湾、それらの方々が乗り降りということでもありますけれども、全体で17万3,000人がいわゆる乗り降りしておられるというふうにご承知しております。

なお、新潟空港におきましても、この中国、韓国、台湾の方々は12万9,000人ということですので、約30万人が、この空港を乗り降りしておられるというふうにご承知しております。

ただ、この方々がいわゆる乗り降りでございますので、実際の観光客としてどれだけ入ってきているかということになりますと、私ども日本から行く場合もござい・ますので、総体的な実数については承知いたしておりません。

ただ、最近の中国、あるいは韓国、台湾の方々が、いわゆる日本に旅行においでになる、これはひとつのブームだそうございまして、特に、この地方におきますと雪、あるいはゴルフ、温泉と

いったものが非常に人気が高いということで、おいでになっているというふうな分析されておりますし、また、先ほど市長の答弁でございましたように、新潟空港利用促進の中でも、そういう観光の推進協議会というのが以前からあるわけでありまして、糸魚川は残念ながら今まで入っておりませんでした。18年度からはその推進協議会の一員として情報の収集にも取り組んでいきたいと、このように考えておるわけであります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員

○17番（伊藤文樽君）

この上越地域については新幹線や高速道路が通って、ここからまた越後湯沢の方まで向けて、どうも観光の方の意識が東京の方に向いていると言われておりまして、小松空港のターミナルビルの役員の方と話をしたんですが、どうもそのせいで、しりすぼみになっている状況があるんじゃないかと。それで白馬は非常に危機感を強く持っていて、この3空港との連携の中での観光客の誘致に、非常に積極的に取り組んでいる。

先日、新聞報道にもありましたが、スキーは衰退の一途をたどっていると言ったけど、スキー場に行ったら非常に人が多いというような報道があって、この中にはいろいろなことが書いてあったわけですが、先ほどの小松空港の方の情報と合わせてみますと、小松・ソウル間には週4往復の定期便がある。270人乗りに約140人ほど乗っているそうですが、40%が韓国の方だそうであります。

平成16年については6万人が利用し、うち2万4,000人が韓国の観光客の方だそうです。

毎回、チャーター便で白馬方面に観光に出ると。冬はスキー、夏は登山という傾向で、1年を通して実施されているということであります。

また、別の情報ですが、2003年度の数字で言えば、年間1万2,000人の韓国人旅行者が長野を訪れて、そのうち7,000人は白馬を目的地としているということであります。白馬のあるホテルでは、先週末の週末も宿泊客の1割弱が、韓国人観光客であったという情報もあります。

富山や小松空港経由で、貸し切りバスで白馬へ向かうという状況があると聞いています。白馬はオリンピックで有名になったことや、それから各スキー場がゴンドラで結ばれているということで、単にスキーをする人だけじゃなくて、しない方にも観光的に非常に有利であるということも聞いています。この人たちはここを通過して、そういうところへ行かれるわけでありますので糸魚川市としては2つのスキー場、それから夏は登山客ということなんです。

先日、上越3市議会合同の研修会で、小野健さんが、拇海新道について熱い思いを語られましたが、ほかにはないすばらしい登山ルートだというお話も切々と聞かせていただきました。あわせて、この方面に対して観光客の誘致を働きかけていくことができないのかどうかについて、可能性と今後取

り組んでいく意思があるかということについてお伺いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

田村商工観光課長。（商工観光課長 田村邦夫君登壇）

○商工観光課長（田村邦夫君）

実は昨日の一般質問でもお答えしたんですが、台湾の方のいわゆる訪問というのが、昨年、実際ありました。これはエージェントでございまして、7社が当地を訪れております。マリンドリーム能生、それからフォッサマグナミュージアム、さらにはホテル糸魚川でご宿泊もしていただいたというのがありました。

いろいろな課題が、そのときに出されておりました、1つには、いわゆる日本人との認識の違い、生活風土の違いというのは当然あるわけございまして、例えばバス、トイレは完全に部屋についておると。いわゆる公衆浴場的なものについては、あまり好んでいないというような話でありますとか、いわゆるシングルルーム、あるいはツインルームであることとか、いろいろな課題が実は上げられておったようでありまして、私どもは残念ながら、それに類してそういう宿泊施設を完備してるかどうかということになりますと、なかなか応ずるような施設は、あまりないという点も現在はあるだろうと、このように思っております。

きのうの話の中に外国人登録という話もございましたが、残念ながら私どものパンフレットにつきましても全部日本語表記でございまして、そこら辺の外国語表記も加えたパンフレットの作成というのも、1つはまず手始めに取りかかるべきものではないかなと、このように思っております。

そこら辺につきましては、いわゆる先ほど申し上げました、県の推進協議会というのがあるわけでありまして、いろいろなノウハウを持っておられる協議会であると、このように思っておりますので、そういったノウハウ、あるいは情報交換を通じながら、今すぐ取りかかるかどうかというのは、これからまた検討ということになるかと思いますが、いずれにしましても、そういった方面への見方も、当然、将来的には必要であるという認識は持っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○17番（伊藤文博君）

今、台湾のエージェント7社が来て、課題が幾つか上がってきたということなんですが、当然、これ市で取り組んでいくことと、観光業者が取り組んでいかなきゃいけないということがあるわけ

でして、そこで把握できた課題について観光協会なり、ホテル経営者なりというところとの協議というのは、どのようになっていますでしょうか。

〔議長〕 と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

田村商工観光課長。〔商工観光課長 田村邦夫君登壇〕

○商工観光課長（田村邦夫君）

お答えいたします。

残念ながら、まだそういった旅館業者とかホテル、温泉、そういったものの方々の意識というのは、まだ外国人観光客誘客に向けての意識は、低いというような状態にあるだろうと私は思っております。

したがって、ホテル糸魚川さんに泊まられているわけでございます。若干のそういう認識は、されたものだろうと思っております。それが全体の旅館とか、温泉関係者にお伝えするような機会は、今のところ持っておりません。

〔議長〕 と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○17番（伊藤文博君）

せっかくそういうチャンスがあって、次のステップにつなげていけないということ自体は、非常にこれ憂慮する事態だろうと思えますね。この今の段階で、外国人観光客の誘致についての意図が、そうなかったということなんでしょうかね。そうであれば、やはりそこに早く取り組んでいくべきだと思いますが。

政府はビジット・ジャパン・キャンペーン実施本部というのを、2003年度に立ち上げていますね。2010年までに、訪日外国人観光客を倍増させるという方向で活動しています。韓国向けの企画では、日本のスキー場を韓国で積極的に売り込んでいて、いろんなどこでビデオを流したりしてるということも聞いています。連携をとって、このシーサイドバレーやシャルマンスキー場を、売り込んでいくということを考えていくべきだと思いますが、どれについてどのように考えられますでしょうか。

〔議長〕 と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

田村商工観光課長。〔商工観光課長 田村邦夫君登壇〕

○商工観光課長（田村邦夫君）

先ほどもお答えしたと思っておりますが、まだまだスタートする準備段階というふうに私は認識しておりますので、まずはパンフレットの作成とか、そういったものも取り組んでいかなきゃいけないと、このように思っております。たまたまきのう大連の話が出てまいりましたが、大連の関係者がシー・サイドバレー、スキー場に冬の体力づくりというようなことで、関係者は全部で50人ほどだったわけでございますけれども、日本人のスタッフとともに訪れておりましたが、非常に毎年交流ということで、楽しみにしてるというような話もございまして、楽しんでおられるようであります。

そういったことからしますと、やはりスキーというのは1つの魅力なのかなと。さらには夏のゴルフというところが、1つの売りなのかなと思っておりますので、そういった方面で、また今後検討してみたいと、このように思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○17番（伊藤文博君）

今後検討してみたいという言葉は一見いいんですけどね、実際に、じゃあ外国人観光客を呼んでいく可能性があると思ってるのかどうか。もし取り組んでいくということであれば、これからどういう手順を踏んでいくのか。まず、パンフレットをつくることから始めてみたい、検討しますじゃ何もわからないじゃないですか。

そのところ総例えば今さっき言ったですね、富がやることと、民間の業者がやるべきことがあるわけですよ。じゃあ韓国協会とどのような協議をして、今後、そのところに働きかけていくんだとか。私が聞してる話では、韓国のエージェントは3社だそうです、小松空港に入ってきている。

ところは。ところが、小松空港には支店がない。そうすると営業的には、韓国まで売り込みに行かなきゃいけないのか。今の政府が言ってるビジット・ジャパン・キャンペーン実施本部と連携をとって、何ができるのかということもあるでしょうけど、そういうふうに今後どう。

要するに、海外の観光客を誘致することに対してどう考えて、どのような方向で取り組んでいくのかということですよ。考え方を聞いているんで、今やるんか、やらんのかという話は、質問されて、やりますとか、やりませんとか言えない話ですから、方向性をしっかりと出してほしいと思うんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

これにつきましては、行政のみならず関係する団体、またはその受け入れ体制も必要なわけがございますので、その辺のやはり観光協会などいろんな方々と当市のまず中で、国際観光、また外国の観光客受け入れに対して、どうすればいいのかというようなところの定義から始めさせていただいて、今あるルートというのは、恐らくどなたかが努力してつくった道でございますので、それに乗っかるというのは、非常に難しいと思われるわけでございますので、当市としては、どのような方向でいくかということも、観光関係の方々とのやはり協議をする中で、この新年度にそういったところを探りながら、検討、調査をさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○17番（伊藤文博君）

地元の観光業者が海外のお客さんを引っ張る意志がないということならば、これはどうしようもない話なんです。しかし、そのことについて他地域の状況がこうなっています、だから糸魚川市でもできる可能性があるのかどうかというところは、やはり行政も探って、それを情報提供していくことも大事なことだと思いますね。

さっきの小松空港の関係者の方は、シャルマンが5月までスキーができるという話をしましたら、それは非常に有望だなと。役員の方ですよ、有望だと思いますという話をされていました。

今、糸魚川市には、当然、外国人観光客を受け入れている実績がないわけですから、新しいことを始めるには困難はつきものですよ。けどほかがやってるわけですから、可能性はゼロではない。そこで、そこに着眼して取り組んでいくということは、非常に大事なことだと思いますので、今後、真剣に協議をして、そこに取り組んでいっていただきたいと要望しまして、次に移ります。

自然環境のすばらしは市民も自認しているところですが、福来口の件なんですけど。先日の田原議員への答弁で市長は、自然資源、をどう生かすかが重要だという答弁をされていました。眠っているすばらしい観光資源だというふうに、福来口鍾乳洞については考えていますが、ひとつ市民はこれ大きく夢を持っています。

ですが先ほど言われたように、大きい課題も抱えているわけですね。今もうこの時点にすれば、観光資源としての特性が、本当に開発に適するのかどうかということを見きわめなければならないということと、それから企業との共存の可能性について、しっかりと探っていかなければならないということだと思えるんですね。これをきちっと整理をして、さあじゃあ初めて観光開発に乗り出していけるのかどうかということになるわけですよ。

今は結局、この辺が霞のかなたで何もわからないまま、福来口の鍾乳洞についてたびたび語られ

ているわけですが、糸魚川市も合併して、地方が自立を求められているこの時期に、やはりもうその辺をしっかりと整理をして、方向性を導き出す時期にきてるんじゃないかと思えます。

企業側ももうやれやれと、開発しろということだけでしたら、当然もう警戒をして話し合いのテーブルには着きませんが、可能性として企業との共存が無理であれば、開発ができないことも含めた検討をする場と。本当にこの可能性をしっかりと見きわめるための協議の場というのが、もう設置されなければならないんじゃないかと思えますが、これについていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

伊藤議員ご指摘のとおりだろうと思っております。非常にこれにつきましては、ハードルの高い資源だろうと思うわけであります。やはり今利用しておる企業、そしてまたこの施設については、一般の方々が入って見るという形になると、どれぐらい整備にかかるのかということを考えますと、非常に私といたしましては、まだ調査をしておる段階ではございませんが、感覚といたしましては非常に高いものだろう、ハードルだろうととらえております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○17番（伊藤文博君）

そのハードルが高いわけですが、その中で市民の期待は大きいわけですね。そのギャップをやはり整理していかなければいけないと思うわけです。

今市長が言われたようふこ、非常に感覚的なところで我々は話しているわけですし、日本にある洞窟の高低差でいきますとv NQ1からNo4まで、この糸魚川市にあるわけです。総延長で言うと福来口鍾乳洞が2,715メートルで18番目、白蓮洞が70番目ということで、非常に規模の大きい洞窟であるということは、明らかになっているわけですが、当然その形状からいって、開発に適しているのかどうかということもあります。それから交通アクセスの問題もあるかもしれませんが、ぜひとも協議をする場をしっかりと設けて、検討するべきという話をさっきしたんですが、これについて、市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

開発ということになれば、観光開発ということなんだろうと思います。そういたしますと、観光・ニーズはどうなんだろうというところも、また問われる部分でございまして、日本で1、2を誇るものは、当市には数多くあるわけでありまして、そういうことの中で観光に耐え得る、また今現在、投資対効果を考えたりいたすとどうなのかというところも当然検討しなくちゃいけないだろうと思います。また、だれがこれを主体になって開発していくかというところもあるわけでございますので、その辺も含めながら当然いろいろ、もうこれは昔から問われているものでございますので、その辺もやはりどこかで結論を出さなくちゃいけないだろうと思っておるわけでございますので、その辺をどうするのかも含めて、新年度、その検討させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○17番（伊藤文博君）

検討するということですので、次へ移ります。

業務改善についてですが、先ほど野本議員は提案制度について触れられました。それにはこだわらないという話をされたんですが、私はこれにこだわりたいんですね。

岩手県が、トヨタ生産方式を取り入れた改善システムをつくりました。岩手マネジメントシステムと言って非常に効果を上げていて、農林の部門、農林水産部で取り組んだわけでありまして、就労時間10万時間を削減したということでもあります。このもとは、常に改善を受け入れられるシステムをつくったということがあるんですが、ポイントは目標設定をしたということですね。10万時間削減という目標設定をして、それに対する提案を受け付けて、どんどん実施していったということでもあります。

したがって、前回は改善提案を常時受け付けられるシステムを、つくってほしいという話をしました。そして例えば必要であれば、月に1つずつ出せとかという義務づけも含めた方がいいんじゃないかという話をしましたが、やはり改善で何を求めるのかという目標設定が非常に大事であろうと思います。できれば糸魚川市に合った業務改善システムを、つくり上げていただきたいと思いますが、この点についていかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

、 本間総務課長。〔総務課長 本間政一君登壇〕

○総務課長（本間政一君）

この業務改善、あるいは事務改善につきましては、いろんなことで伊藤議員の方からもご提案をいただいたり、資料等にもご指導いただいております。やはり1つ1つ進行管理をしながら取り組んでいかなきゃならんわけですが、冒頭お話をしましたよう&こ、それぞれ職員が一人ひとり意識を持って、やはり取り組むということも必要だと思っております。

先ほどお話が出ましたように目標を設定し、それにつしvてじゃあどうするかということを一一人ひとりがやはり感じ取らなければ、提案につながっていかないといーうふうに思っておりますので、先ほど野本議員のときにも提案制度が出ましたが、休み時間について課の方に帰りまして、このことがあったんだと。こういうことをじゃあどういうふうな取り組みができるかと今話をしてきたわけですが、やはり1つ1つ課の中、あるいは全庁的に取り組めるような姿勢を、示していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○17番（伊藤文博君）

やっていただけるということですから、これ以上言うことはないんですが、目標設定と、要するに逆に言うと業務改善の課題を上げて、それに対する提案を受け付けて順次実施していくという、その柔軟なシステムをぜひつくっていただきたいと思います。

総合計画のアンケートで、市民から非常にその他のところで、たくさんの行政に対する、議会に対するものもあるわけですが、意見をいただいております。

これについては先ほど市長が、よく分析をして取り組んでいきたいということでもありますので、アンケート自体は、総合計画策定のためのアンケートでしたが、行政改革の方にもぜひつなげていただきたいと思います。

それでは、男女共同参画プランについて伺います。

国の第2次の基本計画が定められたわけですが、ここで1つ市長に、男女共同参画社会を醸成していく重要性や、社会的要求についてどのように考えておられるか、お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

男女共同参画社会は、もう構築しなくちゃいけないときにきとるだろうと思っております。そう

いったことが、少子・高齢化にもつながっていくんだらうと思っとるわけではありますが、しかし、ひとつの偏見とか偏った物の見方に、寄らないようにしなくちゃいけないんじゃないかなと思っております。ややもしますと批判をされるんですが、私もやはり人それぞれに個性もあるのと同時に、人間はやはり男性と女性しかいないんだというところの中で、どのように対応していくのかという。

それとまた、我々は日本という一つの特有の国の位置づけの中で、歴史とか慣習とか習慣とかいろいろあるわけでございますので、トータル的な物の見方をしていかななくてはいけないんじゃないかなと。1つだけの物の見方をすると、どうしても偏っていく部分もあるのではないかなというのとらえているわけございまして、トータルでものを考えていく中では、私はやはりもうしばらく時間をいただく中で、検討していきたいと思っておるわけございまして、男女共同参画、私は進めていきたいと思っておるわけございまして、その辺もご理解いただきたいと思っておるわけございまして。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○17番（伊藤文博君）

男女共同参画と言いますと、女性が権利を主張しているような側面にとらえがらなんですけど、実際はそうじゃないわけですよ。少子化対策や子育て支援というものとリンクしていく部分が非常に大きくて、男女のお互いを尊重するという部分が言われていますが、いろんな面につながっていくと。

これは1つは人権の問題と、もう1つは男と女という意味で、半数を占める人的資源の有効活用という面で、国力をアップしていくという側面があるわけです。これは社会的要求事項だというふうに、受けとめていけるだろうと思えます。国は、我が国社会を決定する最重要課題だというふうに、この男女共同参画を言っているわけですよ。とらえ方を1つ間違えると、今市長が言われた偏った考え方になりますけど、この問題をよく追及していくと、そうではないことに気がついていくわけですよ。

そういうところで、国は最重要課題だと位置づけているんですが、今後、糸魚川市はどのような位置づけで、この問題に取り組んでいくんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

小掠まちづくり課長。〔まちづくり課長 小掠裕樹君登壇〕

○まちづくり課長（小掠裕樹君）

市といたしましては、男女共同参画の計画を持っているわけではありますが、既にご説明してあるとおり、旧1市2町で計画を持っておったものを、今、合わせた形で推進しとるわけではありますが、これにつきましては早急に、新しい市としての計画をつくるべきだというご指摘もいただいております。

今現在のスケジュールでは、新年度において意識調査を実施をしたいというふうに思っております。それを踏まえまして策定委員会を設置をしながら、19年度において策定作業、20年度から新たな計画のスタートというようなスケジュールで、進めたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○17番（伊藤文陣君）

休憩。

○議長（松尾徹郎君）

暫時休憩いたします。

（午後3時42分 休憩）

（午後3時43分 開議）

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

○まちづくり課長（小掠裕樹君）

位置づけにつきましては、今ほど市長の方から話がありましたように、国の第2次の基本計画の中でうたわれております内容を踏まえながら、市として進めるべき内容を進めていくというふうに考えておりますが、基本的には新市の中での1つの重要な課題でございますので、機構改革の中でも新たな部署の中で、精力的に進めていくという方針を打ち出しております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○17番（伊藤文樽君）

ところが、その組織案では共同参画係というのがなくなっていますね。これはまちづくり室で分

掌するという考え方をされているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

本間総務課長。〔総務課長 本間政一君登壇〕

○総務課長（本間政一君）

さきの行政改革特別委員会のときには、まちづくり室ということでの名称を使っていたかと思っておりますが、その後、総務課におきます地域づくり室というものを設けまして、その中で対応するというところで考えております。

〔「議長」 と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○17番（伊藤文陣君）

糸魚川市行政組織条例の一部改正する条例の分掌事務には、男女共同参画に関することというのは上がっていませんよね。もともとの糸魚川市行政組織規則では、係の方のあれに上げられているんですが、ここに大きな項目として上がってないということは、そう大きな事項としてとらえてないのでしょうかね。先ほどまちづくり課長は、重要な課題だとおっしゃいましたが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

本間総務課長。〔総務課長 本間政一君登壇〕

○総務課長（本間政一君）

先ほどから出てましたように、国が重点項目として進めているわけですので、当然、市も同じ考えでおりますが、部制を設けまして新たな組織の分掌を提案しているわけですが、その中では主なものを提案させていただいておりますので、その中にうたわれないということでご了解願ってます。

今後、詳細な課別、係別の事務分掌を規則で設けますので、その中でうたっていくということで、理解いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○17番（伊藤文博君）

そう言われればそれまでなんですけど、主なものに上がってないということは、あまり重要じゃないかなと思ったんですが、そうではないということですので、今後の取り組みに期待をいたします。

男女共同参画社会の形成については行政が行えること、それから社会全体が認識していかなきゃいけないこと。その中には企業も含んでいるわけですし、行政が行える男女共同参画のポイントというのは、2点あるんじゃないかと思うんですね。

行政が主導していく指導的地位への女性の登用と、例えば委員会とか。それから子育て中、子育て後の女性が、安心して働ける子育て支援事業というふうにとらえられると思うんですが、その指導的地位への女性の登用について、どのよ効こ考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

本間総務課長。（総務課長 本間政一君登壇）

○総務課長（本間政一君）

男女のいろんな委員会、あるいは各種事業等に参画をいただくということでのことだと思っておりますが、委員の数につきましてもちょっと数字的にはあれ一ですが、一定の数値を設けまして参画をいただくことで、進めていきたいというふうに思っております。委員会のみならず、いろんなことに参画をしていただくように、またいろんな事業の中でも取り組むということは、常々話を進めているわけでありまして、その方針で進めていきたい考えであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○17番（伊藤文博君）

そうしますと、もう一方の方の子育て支援の方になるんですが、実際、これは別の項目のようですが、実際に男女共同参画という社会が成り立つためには、女性が継続的に働けるという状況がないと、これはなかなか実現しないわけですよ。その中で市が行えることと言いますと、女性が子育て中に、例えば延長保育とか学童保育とかというもので、支援をしてもらうという形の中で、安心して働けるということなんですけど、この点についての今後の取り組み方法というものについて、お願いいたします。

〔議長J と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

本間総務課長。〔総務課長 本間政一君登壇〕

○総務課長（本間政一君）

新しい組織の中でも地域づくり室を設けて、その話が出ておりましたが、新たに福祉事務所の中に子育て支援室を設けて、やっぱりそのことを重点に進めたいということでの意気込みだというふうに、理解をお願いしたいと思います。やっぱり女性だけではなかなか解決できない、男女ともに協力し合わないといけないもの、あるいは制度的にいろんなことに取り組むことによって、子育て支援が成り立つというふうに思っておりますので、それらを重点的に取り組むということに対応する室を設けてきたわけですので、それらの中で検討をし、前向きに進めていきたいという考えでおります。

〔 掬議長〕と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

織田福祉事務所長。〔福祉事務所長 織田義夫君登壇〕

○福祉事務所長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

男女共生社会を形成するためには、子育て支援事業が極めて大切なことだということは十分認識をしております。ただ、それはあくまでも子育て支援事業を実施することにより、その結果ということで考えておりますので、男女共生社会を推進するために、逆に子育てを推進するというのも1つの考え方なんですけども、今時点では子育て支援事業を促進して行って、男女共生社会の形成に参画できればということで考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○17番（伊藤文博君）

少子化対策と、子育て支援と、男女共同参画というのは、つながっているって話をしましたが、まさに言われるようにどっちが先かは、これはいいんですよ。総合的な施策としてやっていくわけですから、ですから福祉事務所の所長の立場として、自分のところとしては子育て支援をやって行って、それが男女共同参画につながっていくんだという言い方をわざわざしなくても、市の施策として総合的に横の連携をとってやっていくために部制をひくんですよという話を市長がされたばかり

りですから、やはりそういう言い方はあんまり必要ないんじゃないかと、つながれば幸いですということならわかるんですけど。

全国には25歳から54歳の就職希望者が264万人いると言われていて、この264万人というのは、収入になる仕事を希望しているけど、求職活動はしていない人なんだそうですね。求職活動はしているけどついてないんじゃないかと、していない人が264万人いるということですが、こういう面から見ての市内の状況を調査されたことはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

小掠まちづくり課長。〔まちづくり課長 小掠裕樹君登壇〕

○まちづくり課長（小掠裕樹君）

女性の就業に対する、今ほどおっしゃったような数字の市内の調査というのは行っておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○17番（伊藤文博君）

把握しにくい数字ではあると思うんですね。アンケートでもとって、あとは推計するしかないとは思いますが、実際に相当数いるんじゃないかと思えます。また職があるかという問題もあったりして、これは端的に、この面だけでぐいぐい押していっても、らちが明かん問題なんですけど、合併後1年を経まして、旧1市2町のいろんな制度調整が行われてきました。

児童館とか学童保育に関しては、大きな違いがあります。この点もこれから整理をされながら、須沢地区が子育てモデル地区に指定されたこともあって、そこで展開される事業が、これから全市に広がっていくことを非常に期待しているわけですが、その点については今後またよろしく願いいたします。

そして2月21日の新潟日報に、上越市が子育てジョイカード事業というのを新年度から始めるというのがありました。6月議会の一般質問でも私の方から、石川県知事が18歳未満の子供が3人以上いる県内1万9,000世帯にプレミアムパスポートというのを発行して、これを飲食店やスーパーで見せると、代金が安くなるシステムをつくったという話をさせていただいたんですが、まさに上越市がこれをやったというか、これからやるということなんですけど。当然、競争しているわけじゃないので、どっちが早きゃいいとかという問題ではなしですけど、地域間競争ということも言われていますので、糸魚川市として合併1年は、大変煩雑な業務の中で明け暮れたと思いますが、今後いい制度を見習って、早めに取り入れていくということをぜひやっていただきたいと思えます。

ジェンダーフリーという言葉なんです、この言葉については、本来は性による差別を撤廃するという非常に純粋な意味だったと思うんですが、いろいろ思想を持っていた人が、この言葉を使って過激な方向に持っていったという例もあったりして、東京都の教育委員会は平成16年8月に、この言葉を教育現場から全廃するというふうに決定しております。

正しい言葉であっても、世の中に通っているものが少し方向性が変わってきてしまうと、それをまた利用して、おかしい思想が入ってくるということがあっても困りますので、この男女共同参画そのものの考え方についても、単に女性が権利を主張しているということではなくて、今のこの少子・高齢化の中で、社会的要求事項であるということ踏まえて、そしてその男女共同参画ということについての認識も、糸魚川市全域にしっかりと根づくように。そしてその用語の使用についても、その意味をしっかりと理解をして慎重な取り扱いをしながら、ぜひ糸魚川市がこの意味においてもほかに誇れるまちになってもらいたいというふうに思います。

ぜひとも今後の取り組みに期待をいたしまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

（午後3時55分 延会）